

## 数理・データサイエンス教育の現状調査について

### 1. アンケート調査の目的

全国の数理・データサイエンス教育の現状を把握し、課題の抽出等のための客観的資料とするとともに、数理・データサイエンス教育の時系列的変化を把握することを目的としています。

### 2. 本調査における数理・データサイエンス教育の意味について

数理・データサイエンス教育について、文科省の「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」によると、「数理的思考やデータ分析・活用能力をバランスよく修得させるような教育内容とすること」および「専門分野における応用展開や社会における課題解決等に活用できる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する必要」が要請されています。

本アンケートにおける数理教育についても、いわゆる数学専門教育ではなく、線形代数、微分積分、確率・統計などのデータサイエンスの基礎となる数理的方法の教育といたします。また、データサイエンス教育とは、文系・理系を問わず、また入門レベルを含んだ、データを活用して分析や予測、あるいは意思決定ができるようにすることを目指した教育といたします。このような観点で、アンケート項目についてお答え頂ければ幸いです。

### 3. 調査の対象

全国の国立、公立、私立の全大学（789校）を対象としています。

### 4. 調査データの取り扱い

調査データは統計処理を行った上で、数理・データサイエンス教育の現状把握、変化把握およびコンソーシアムのミッションである標準的カリキュラム（スキルセット、参照基準）の作成、教材作成、教育用データベースの構築の目的だけに用いるもので、個別の大学名を挙げて議論したり公表したりすることはありません。

調査データの統計分析が実施できた段階で、その結果をご協力いただいた大学にフィードバックする予定です。